

第65回 名古屋まつり ～宵の山車揃～

日時 令和元年 10月19日【土】 14:00～21:00

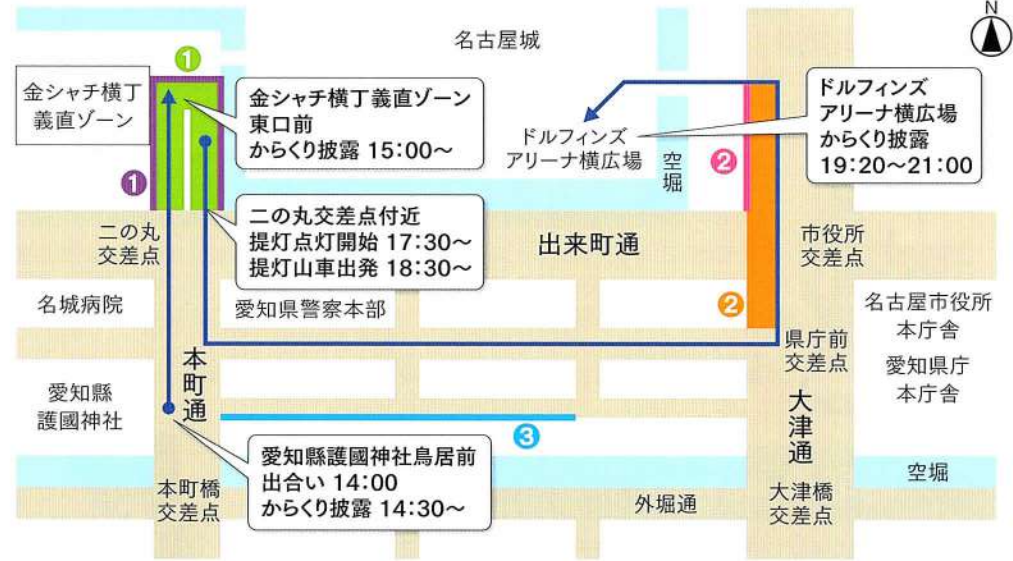
概要

例年の名古屋まつり「山車揃」に参加する東区・中村区・中区の山車9車による祭典。豪華絢爛な山車が、金シャチ横丁「義直ゾーン」東口付近から提灯を点灯し、官庁街を練り歩いたのち、ドルフィンズアリーナ横広場からくり演技を披露します。夕闇が迫る中、灯がともる山車の行列、伝統的なからくり演技等をぜひお楽しみください。

※雨天等天候の状況によって中止となる場合があります。

<行程概要>

愛知縣護國神社鳥居前	9車出合い	14:00～
	からくり披露	14:30～
金シャチ横丁義直ゾーン東口前	からくり披露	15:00～
二の丸交差点付近	提灯点灯開始	17:30～
	提灯山車出発	18:30～
ドルフィンズアリーナ横広場	からくり披露	19:20～21:00



交通規制

車両通行禁止

①金シャチ横丁義直ゾーン東口前 14:00～19:00
②大津通北行二車線 18:30～19:50

車両駐車禁止

①金シャチ横丁義直ゾーン東口前 14:00～19:00
②大津通北行 18:30～19:50
③愛知縣護國神社東 13:00～16:00

アクセス

- 愛知縣護國神社
地下鉄名城線「市役所」下車5番出口より徒歩7分
地下鉄鶴舞線「丸の内」下車1番出口より徒歩10分
- 金シャチ横丁「義直ゾーン」
地下鉄名城線「市役所」下車7番出口より徒歩10分
地下鉄鶴舞線「浅間町」下車1番出口より徒歩10分
- ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)
地下鉄名城線「市役所」下車7番出口より徒歩5分



第65回 名古屋まつりでは、10月19日(土)から20日(日)まで、さまざまなイベントを実施します。詳しくはこちらへ! →



だし 山車紹介

時を越えて
受け継がれた、
まつりの華。
そして、
伝統からくり人形の
競演。

()の内は制作年、本陣。
◆～◆は宵の山車揃進行順。



五 王義之車 おうぎししゃ

この山車の特徴は蛇高欄と申しまして、高欄支輪部に雲龍、海龍の彫刻、又輪懸けの上には手摺りがつけられております。からくりは獅子頭を着けた小唐子が親唐子の肩に乗って逆立ちする高度な技術のいるからくりです。

※昭和(1948～1952) ●東区古出来一丁目1-6/古出来町奉賛会



一 神皇車 じんこうしゃ

森高雅、山本梅逸ら郷土の高名な画家が下絵を手がけた十二支の水引幕は、江戸工芸美術の粋を伝えます。また巫女から鬼面、そして龍神へと様変わりするからくりは必見です。

※文政7年(1824)
●東区筒井一丁目12-36(旧称筒井町1・2・3丁目)/神皇車保存会



二 湯取車 ゆとりぐるま

人形や雲龍の刺しゅうの水引幕は制作当時のもの。金ぱく塗りの鏡天井、高欄の彫刻も見事です。釜から湯気が吹きだすように紙吹雪が舞うからくりは、湯取り神事をうつしたものです。

※万治元年(1658)
●東区筒井町四丁目(旧称筒井町4丁目 車道町4丁目)/湯取車保存会



七 唐子車 からこしゃ

しなやかに動く堅木(かたぎ)の精巧なからくりは、制作当時のもの。祭囃子には能囃子を使い、大つづみのかわりに太鼓を当てるなど、面白さを加えつつ上品さを保っています。

※文政年間(1818～1830)
●中村区名駅南一丁目8-5(旧称内屋敷町)/内屋敷唐子車保存会



三 河水車 かすいしゃ

山車の4本柱や高欄廻りには檳榔樹(びんろうじゅ)が使われ、この近郷では他に見られないほど豪華な彫り、塗り、金具が特長。2体が対をなす人形の所作や衣装もあざやかな美しさです。

※延宝2年(1674)
●東区出来町三丁目19-21(旧称中之切)/中之切奉賛会



四 鹿子神車 かしかじんしゃ

水引幕は森高雅の下絵による豪華な孔雀の総刺しゅう。からくり人形3体の動きは、唐子2体が逆立ちしたり、太鼓を打ち鳴らし、大将がその出来の軍配をあげるといふユニークな内容です。

※延宝2年(1674)頃
●東区新出来一丁目5-1(旧称西之切)/西之切奉賛会



九 福祿寿車 ふくろくじゅしゃ

若宮八幡社の祭礼車として作られ、水引幕には群鶴の刺しゅう。福祿寿の人形を始め4体の人形が載る。多彩な動きを見せる小唐子と中唐子は、明和4年(1767)に人形師・竹田壽三郎が改良したといわれています。

※延宝4年(1676) ●中区栄三丁目35-30(旧称 大久保見町)/若宮八幡社

